

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

数のまとまりや、被乗数と乗数の関係が理解できない。

問題：この図の○の数はいくつかな。九九を使って考えよう。



12345678910…11…
わかった！ 12個。

まとまりとして見られず、
図の○の数を数えている。

4のまとまりが3つだから
 3×4 。

まとまりを正しく式に表せない。



単元の概要

目標

かけ算の意味を理解し、「何のいくつ分」「何の何倍」と考えることができる。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- かけ算の意味や式のとよみ方、かき方
- たし算を活用したかけ算の答えの求め方
- 倍の意味
- かけ算の九九
- かけられる数とかける数の意味

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	速さ	→ 速さの意味や表し方が十分に理解できない。
第5学年	単位量あたりの大きさ	→ 異種の2つの量の関係を正しくとらえられず、わり算によって求められた数値の意味が理解できない。
第4学年	小数のわり算	→ 商が1より小さくなる等分除の場面で、除法が用いられることを理解することができない。
第3学年	あまりのあるわり算	→ 乗法と除法の関係や等分除、包含除の違いが理解できない。
第2学年	かけ算	→ 数のまとまりや、被乗数と乗数の関係が理解できない。
第1学年	同じ数ずつ	→ 乗法や除法の素地となる「同じ数ずつ」の意味が理解できない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

図の○の数をまとまりで見て、かけ算の式と結び付ける活動

活動のねらい▶ ・かけ算の同数累加のイメージについて話し合うことで、「何のいくつ分」としての見方をもたせる。

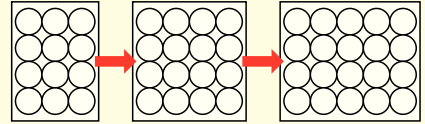
期待される児童の姿

○の数はいくつあるでしょう。



ここがポイント

• 答えを確認する際に、色画用紙で隠した図を、下図のように、乗数にあたる縦の列が1列ずつ増えるように見せる。
→ 縦のまとまりとして自然に見られるようになる。



ここに4の列があるなあ…。
あっ！また、4の列が増えた！もう1つ増えそう。



4? 3のかたまりと違うの?
あっ！そうか!
4つつ増えている。

図の縦を1つのまとまりととらえ、「何のいくつ分」という関係を自分なりに整理することができる。

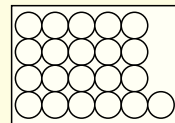
つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

数図ブロックを○が並んだ図に見立てて、自分がどのように考えたのかを、ペアで伝え合う活動

活動のねらい▶ ・数図ブロックを並べながらペアの児童に説明することで、まとまりが意識できる。

ここがポイント

• 下図のように、きちんと○が揃っていない図を提示し、「21個をすきまなくつめられる箱を作りたいけど、どう並べれば箱の形に並べられるかな?」と問いかける。説明の際には、「まとまり」という言葉を用いるように指示する。
→ 3×7 、 7×3 のどちらで考えた場合でも、まとまりがいくつあるのかを意識することができる。



期待される児童の姿

きれいに3のまとまりを作っていたらきっちりに箱に入りそう!



3が7つだから 3×7 ! …横に見たら、7が3つにも見えるな… 7×3 ?

既習のかけ算をブロックで表すことで、「まとまりのいくつ分」を意識すれば、習っていないかけ算も解けることを実感することができる。